

日中韓フォーサイト事業
事後評価（平成29年度採択課題）書面評価結果

日本側拠点機関名 国立研究開発法人理化学研究所
研究交流課題名 （生命機能科学研究センター・チームリーダー・渡辺 恭良）
分子イメージングに基づく高精度細胞治療

評価結果（総合的評価）

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| S | 想定以上の成果をあげており、当初の目標は達成された。 |
| A | 想定どおりの成果をあげており、当初の目標は達成された。 |
| ○ B | ある程度成果があがり、当初の目標もある程度達成された。 |
| C | 成果が十分にあるとは言えず、当初の目標はほとんど達成されなかった。 |

所見

本課題は、日中韓の連携により幹細胞の生着やその効果を分子イメージングを用いて評価するシステムを構築することを目的としている。

コロナ禍の影響があったため、本課題の遂行に大きな制限があったが、その中で理化学研究所を中心として、分子イメージングに関連する複数の先端的な国際共同研究が着実に進展している。相手国機関から理化学研究所への来訪や合同シンポジウム等を通じた交流・共同研究に関する意見交換等を通じ、若手研究者の教育・研究意欲が向上し、三か国での世界的研究拠点形成が進んだことは評価される。

一方で、国際共同研究の論文成果は十分とは言えない。学会発表に関しても、本来の目的の幹細胞の生着等の評価や、幹細胞の追跡を可能とする新規技術に関するものは多くはない。若手研究者、特に大学院生の参加が少なく、次世代の中核を担う若手育成の取り組みが十分であったか判断が困難である。

他機関・大学や関連学会への呼びかけをするとともに、コロナ禍で普及したWeb会議を積極的に活用し、若手研究者が主体となった定期的な研究交流会やセミナーなどが開催されてもよかった。

拠点形成の成果は早急に得られるものではないことから、引き続き構築したネットワークを基盤とした国際連携研究を推進することが望まれる。